

【全体概要】本県のトルコギキョウは生産額で全国3位の主産県で、10～12月にかけて出荷する秋出し栽培においては主要産地に位置付けられている。しかし、出荷率の低下が課題となっており、高品質で安定した生産技術の確立が急務となっている。そこで、RTF苗を利用した栽培技術の本県の状況に応じた形で確立し普及させるため、3.0節以上の大苗と水分管理の技術を確立し、県内産地へ広く普及を図る。

## 新品種・新技術等の概要

トルコギキョウではこれまで、定植後のロゼット(未開化)を回避するため2.5節まで種子冷蔵や冷房育苗で育成した苗を定植することが一般的技術であった。

### 【導入する新技術】

- ・抽台を始めた苗(RTF苗)の利用で、定植後の生育揃い、品質が向上するとされている。
- ・高温を経過する作型が主体となる本県での生産において、活着時のリスクを低減するため3.0節以上の大苗を用いた栽培技術を導入する。

### 【本県での普及状況】

大苗導入面積 R3:0.7ha(7%)R4:2.7ha(29%)



既存技術 2.5節苗



大苗 3.0節



抽台苗 RTF

※R5実績

## 主な取組内容

### 【検討会の開催】

産地育成検討会の実施: 1回/5～3月各月 計10回  
トルコギキョウプロジェクトの実施: 6月、8月、1月 計3回  
生産販売検討会の実施: 9月、2月 計2回

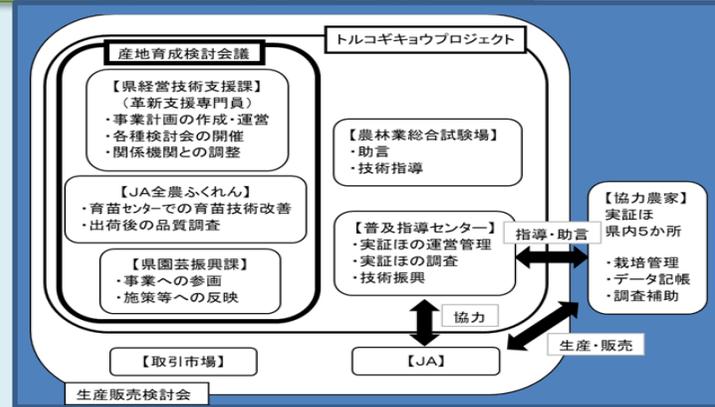
### 【現地実証園の設置】

実証展示ほの設置: 久留米、飯塚の各地域  
計 県内2か所に設置

### 【栽培マニュアル案作成】

秋出しトルコギキョウ栽培の手引きの検討 8月、1月 計2回

## 実施体制図



事業成果は、経営技術支援課が中心となり、普及指導センター、JA、協力農家の協力のもと各産地に普及を図る。

## 実績と今後の展開

※R5実績

### 【事業実績】

- 栽培の手引きを作成
- 大苗導入のポイントを含む、本県における秋出しトルコギキョウの栽培の手引きを作成した。
- 大苗導入面積(秋出しトルコギキョウにおける導入割合)  
R3:0.7ha(7%) ⇒ R4:2.7ha(29%) ⇒ R5:4.5ha(52%)
- 系統共販における10a当たりの出荷本数(10a当たりの出荷割合)  
R3:19,379本(59%) ⇒ R4:19,918本(60%) ⇒ R5:21,277本(64%)

### 【今後の展開】

事業で作成した「秋出しトルコギキョウの栽培の手引き」を活用し、さらなる大苗定植技術の普及を推進し、産地の維持拡大を図る。